

平成 26 年 3 月度県内産業景気動向調査結果

この調査結果は、中小企業庁の指定事業に基づいて設置された山口県内の情報連絡員 60 人に、本会が新たに選んだ 20 人を加えた 80 人の連絡員より業界動向を把握した結果です。

総じて、仕事量や売上が増加し、経営状況に明るい兆しが見え始めたとの報告も増えたが、3 月期も、依然として、消費税増税前の駆け込み需要に関する報告が多く、繊維工業、木材・木製品、印刷や小売業、サービス業の一部によると、「駆け込み需要があった」とあり、収益が若干好転したもようである。一方で、食料品、商店街、サービス業の一部からは「駆け込み需要は特にない、思ったほどない」とある。

2 月に続き窯業・土石製品、一般機器、建設業、運輸業では、仕事はあるが人材不足が顕著となり、問題となっている。燃料費は、ほとんどが高止まりのまま、材料費の高騰もあり、収益を圧迫し続けている。

「消費税増税後の反動を懸念する」声が多く報告されており、4 月以降の中小企業の景気動向を注視する必要がある。

山口県の主要指標 DI 値（平成 26 年 3 月末現在）

※DI 値とは、前年同期に比べ「増加」・「好転」したとする企業割合から「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値です。

業界の景況（〈好転〉－〈悪化〉＝〈DI 値〉）

前年同月比は、好転：16.3% 悪化：21.3% DI 値：▲5.0% ポイント

売上高（〈増加〉－〈減少〉＝〈DI 値〉）

前年同月比は、増加：42.5% 減少：18.8% DI 値：▲23.7% ポイント

収益状況（〈好転〉－〈悪化〉＝〈DI 値〉）

前年同月比は、好転：21.3% 悪化：23.8% DI 値：▲2.5% ポイント

山口県の業種別 DI 値(業界の景況)（平成 26 年 3 月末現在）

 30 以上	 30 未満～ 10 以上	 10 未満～ ▲10 以上	 ▲10 未満～ ▲29 以上	 ▲30 以下
--	--	---	--	---

食料品	繊維工業	木材・木製品	印刷	窯業・土石製品	一般機器	輸送機器	全製造業
▲57.1	25.0	0.0	▲50.0	16.7	11.1	▲50.0	▲9.1
							

卸売業	小売業	商店街	サービス業	建設業	運輸業	全非製造業
20.0	▲22.2	▲75.0	0.0	40.0	▲14.3	▲2.2
						

全体
▲5.0


特記事項（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）

食料品	春休みは例年並みの売上であった。消費税増税前の駆け込み需要は特にはないが、前払いによる注文が若干あった。	パン・菓子製造業
	3月度は昨年比+2%程度の推移。全国放送が相次ぎ、3/2TBS系全国「がちりマンデー」、3/20TV東京系全国「カンブリア宮殿」にメインで登場したことも、集客に大きく寄与した。4月以降もTBSやNHK総合など全国放送のTVロケ収録が続く。中国新聞3/27朝刊にも登場。地域商店街活性化事業助成金の採択決定。	水産食料品製造業 萩市
	消費税増税前の駆け込みか売上は多少いいものの、来月以降の動向が読めない。	水産食料品製造業 下関市
	昨年の豪雨災害に伴い、地域の中では2~3年程度、全く営農できない者も出てきている。早急な復旧対策が求められているのだが、現場の対応が遅いため、自ら復旧作業を行う者も出てきているという状況になっている。何らかの支援策を紹介していただきたい。	精穀・製粉業
繊維工業	消費税増税前の駆け込み需要はあまりなかった。4月以降がどうなるか不安。	帆布製品製造業
	業界全体が厳しい業況だが、消費税増税前の駆け込み需要の影響があった。受注も増加したが、短納期で対応が非常に苦しくなっている。5月以降の受注は不透明。組合員企業が行う太陽光発電事業は工事着工認可にもう少し時間がかかる模様。	下着類製造業
	消費税増税前の駆け込み需要は見られなかった。	外衣・シャツ製造業 山口市
	仕事量の減少を心配していたが、4月も順調に仕事は入っている。	外衣・シャツ製造業 下関市
木材・木製品	木材価格が下降し始めている。新設住宅着工戸数等の消費税増税後の反動を危惧している。	製材業・木製品製造業 山口市
	消費税増税前の駆け込み需要と公共工事用の材料納品があったが、駆け込み需要も下降気味となっている。	製材業・木製品製造業 下関市
印刷	通常の年度末需要と消費税増税前の駆け込み需要で仕事量は増加しバタバタの状況。但し、多品種小ロット・売値の低下・材料の高騰で、収益はあまり好転していない。	印刷業 下関市
	月初は売り上げが危ぶまれたが、月末になってだんだん盛り返してきた。その代わり残業、休日出勤が増え、従業員の健康管理が不安になってきた。	印刷業 山口市

窯業・土石製品	対前年同月比は、骨材115%、路盤材138%、再生材110%、全体では120%の出荷量となっている。平成26年4月1日より骨材のみの値上げをする。路盤・再生材については現在調整中。トラック業の一部の倒産によりトラック数が減っていたところに、阿東の災害復旧が始まり仕事量が増え、トラックが不足しており、運送が追いつかない状況が続いている。	砕石製造業
	出荷量は、前月比114%、前年同月比120%といずれも増加し、本年度4～2月の出荷は前年度比106%で前年度出荷を上回る見込みである。現時点で、セメント・骨材等の資材調達は、特に問題は生じていない。砂、砂利、セメントなど原材料価格は値上げされているが、生コン価格は安定している。	生コンクリート製造業
一般機器	自動車関連の組合員は、2月と同様の受注傾向で増減は無い。大型鋼構造物製造の組合員は、オリンピック需要が始まり、受注量を1社では捌き切れないので、関連会社に生産委託を行っている。	一般機械器具製造業 防府市
	設備の稼働率は上昇傾向。外国人実習生の受け入れ数も増加傾向にあるので雇用についても改善するのではないかと思われる。水産加工は厳しい状況。外国人実習生の制度については、国において制度改正の協議の途中であるが、県内福祉施設、建築業から外国人実習生について問い合わせがあった。	一般機械器具製造業 宇部市
	金型製造関係の生産設備操業度は、2月中旬以降の受注により、3月中旬から加工設備の稼働状況が上がって来ており、中には海外向けもある。納期は5月中旬～6月となっており、4月、5月の設備操業度は3月同様高水準の見込み。昨年から継続してリピート金型の引き合いがあるが、その間に新規金型を如何に取り込めるかで売上が左右される。4月より消費税増税となるが、3月末の検収案件が多々有り、4月からの動向が気になる所である。昨年と比べ、開発案件等に新しい動きが出ている。他社との価格競争や、短納期に如何に差別化して受注して行くかが今後の課題だと考える。成形製品の動向は、3月の売上高、稼働率とも、昨年と比べ上昇傾向であったが、4月以降は、増税の影響等の不安要素はあるものの、新規製品の動きもあり、今後の受注増に期待するところ。	特殊産業用機械製造業
輸送機器	車両輸送部門は依然として作業量が低水準の推移だが、春先以降に作業量の増加が見込まれる。精密加工部門は春先まで好調な作業量で推移する予定。	鉄道車両・同部品製造業
卸売業	利益の出ている企業と出していない企業が半々の状況。	各種商品小売業 防府市

	消費税増税前は、売上が増加したが、4月の落込みが懸念される。	各種商品小売業 山口市
	組合共同購入のガソリン価格は、一番高い今年の7月・8月に比べると約10円程度値下がりしているが、消費税増税後は、値上がりの予定。建築工事の受注量が増加し、売上も増加している。	各種商品小売業 下関市
	季節の移行によりトラフグの消費が減り、加工商品の売上も減少。消費税増税の影響も懸念される。	生鮮・魚介卸売業
小売業	消費税増税前の駆け込み需要で、店頭が賑わっている。特に高額商品のまとめ買いが多い。しかし、4月、5月の反動が心配である。	化粧品小売業
	消費税増税前の駆け込み需要が見られた。4月からの落込みは、田植えの時期が目の前となっており、さほどないのではないかと考えている。	農業用機械器具小売業
	地域の酒・食料品は17店舗あり、消費税増税前の駆け込み需要で業績が好転しているが、4月以降の反動を懸念している。理美容は2店舗あり、利用者が郊外の1,000円カットに流れる可能性があるため、消費税増税の料金変更を検討しているが苦慮している。衣料・呉服は3店舗あるが、季節の変わり目でもあり、お年寄りの購入が増加した模様。電気器具は2店舗あり、消費税増税前の駆け込み需要で、特に白物家電が好調であるが、4月以降の反動を心配している。薬品・化粧品は3店舗あり、価格競争があまりなく顧客を掴んでいるが、益々、インターネット販売が脅威になりつつある。米穀は2店舗あり、状況は悪化したままで変わっていない。時計店は1店舗あり、装飾品（宝石など）の売れ行きが上向きであるが、4月以降の買い控えが予想される。家具店は1店舗あり、新築の備え付けオーダー家具やリフォームで駆け込み需要があった。事業主は、駆け込み需要で経営環境が好転したが、4月以降の人件費・仕入れ価格の上昇や、消費税増税による買い控えを懸念している。「地方では本格的な景気回復を実感出来ず、4月以降に大いに不安がある」との声が多く、政府の景気対策に期待はするが、前回の消費税増税時のようにならない様に願うしかないと考えている。	各種商品小売業 岩国市
	中心市街地も周南市が掲げる公園都市（パークタウン）周南に向けて動き出した。	各種商品小売業 周南市
小売業	3月中旬以降、消費税増税前の駆け込み需要が顕著となり、前年同月比37%増となっている。4月以降の落込みがどの程度となるのか不安である。	各種商品小売業 山口市
	4月からの消費税増税に関連し3月末から駆け込み需要がみられ、客数はほぼ前年並みだが全店舗で客	各種商品小売業 長門市

	単価が上がり、売上は前年をかなり上回った。4月以降に反動がかなり出ると予想される。	
	消費税増税前の駆け込み需要で売上は増加しているが、駅前開発の影響もある。	各種商品小売業 下関市
商店街	さくら祭りのイベントに協力し、3日間程駐車場を無料開放したので、駐車場売上は減少したが、来街者が少し増え、各組合員店舗の売上は多少上がった。	山口市
	大型スーパー等では、駆け込み需要がある模様であるが、3月14日からの生活応援セールは、期待した程の駆け込み需要は無かった。4月からの販売促進のため、生活応援セールの第2弾を企画。	萩市
サービス業	2、3月は前年度よりも、消費税増税前の駆け込み需要でわずかに売上が増加したが、4月以降の反動に注意が必要と思われる。	美容業
	4月から消費税が増税になるが、家計の負担が増えるため、対応しないサロン、出来ないサロンが出てきそう。	理容業
	自動車整備事業の実態調査の結果が発表され、業界全体の平成24年度の売上げは前年度比2.3%増との報告があった。しかし、この結果は前年の調査が東日本大震災の影響を受けているデータであることを考慮すると、経営環境は厳しい状況が続いていると考えられる。4月からの消費税増税の影響が心配される。	自動車整備業
	カーナビとタクシー料金機器等の駆け込み需要により、3月の売上は、想定以上の売上であった。4月はその反動が見込まれる。	
	人材派遣は案件は多いが、マッチした人材がいない。派遣価格が低いといった問題もある。消費税増税にともなうシステム修正もあると想定するが、一時的なものでしかない。	情報サービス業
	ビジネスホテルの売上は前年同月比95%程度で、前年も同月比を割っているので状況は厳しいまま。この中でも歓送迎会は順調に開催され売上に貢献している。観光客は、県外からのお客様が増加しており、関西方面がやや回復傾向にある。春休み期間中は、直前の予約が思いのほか急激に伸び、お孫さんを連れた旅行客が目についた。家族旅行を兼ねた里帰りなど、増税前の特需なのか、旅行気分を促す雰囲気を感じた。消費税増税後の4月からの動きは不透明な部分が多いので、行楽気分を醸し出すような景気の良い話題を願っている。	旅館業 下関市
3月売上高は前年比弱増。収益状況は前年の赤字より好転。若干の黒字となる。人件費の削減等による経費削減が影響した。	旅館業 長門市	

	<p>全体的には、多少の好転気配といったところ。相変わらず、昼間の利用者は増加しているものの、夜の利用が伸び悩んでいる。そのことから、売上高は微増。雇用についても、増員とまではいかない。例年通り、転勤時期になり、その関係での利用者増加は見られたものの、回復とまでは言えない。地区的には先月と同じく、岩国、周南地区が堅調。</p>	飲食業
	<p>消費税増税前の駆け込みが多く見られたが、一過性の模様である。業界はパッとせず、組合を脱退希望の事業所がちらほらと出てきている。アベノミクス効果は、やはり一部の業種や企業のものと思われる。</p>	屋外広告業
建設業	<p>中電への工事申請は2月322件（当支部分278件）、前年同月277件（同223件）。太陽光発電への申請82件、オール電化申請105件（前年は太陽光107件、オール電化58件）。LED街路灯への切替・新設申請は82件（前年34件）であった。消費税増税前の駆け込み需要が窺える。</p>	電気工事業
	<p>公共工事の増加と技能者不足の中で、組合員企業は忙しくしている。十分な仕事量と売上げで、組合員の経営状況に明るい兆しが見え始めた。</p>	左官業
	<p>公共工事の発注は一段落しているが、契約の変更が多く、翌年度への繰越工事が増加している。一戸建住宅の着工は大幅に減少しているが、一部には、店舗工場や倉庫棟の解体工事が出ている。</p>	土木工事業 柳井市
	<p>景気は良くなると言われながら、地区の公共工事は目立って増加していない。</p>	土木工事業 下松市
	<p>例年、この期間の受注は無く、3月末納期の工事の追い上げに忙しい状況。</p>	土木工事業 周南市
	<p>平成25年発災の激甚災害の復興工事の受注があり、3月の受注高は、対前年同月比636%、今年度の累計の対前年比は354%となった。</p>	土木工事業 萩市
	<p>工事量はあるが、人手不足は続いている。3月末で平成25年度の公共事業は完了した。4・5月は公共工事の入札が無いので、例年と同じく工事は6月以降に開始となる見込みだが、平成26年度の公共事業は平成25年度よりも多くなる模様である。</p>	管工事業
運輸業	<p>消費税増税前の駆け込み需要と年度末に向けての需要増が重なり輸送量は一段とアップし、車両不足に悩まされた。若手ドライバー不足により車両の稼働率が低く、売上は前年同月比で約10%減少した。燃料価格は2.2円の値上げとなり、安定した収益確保が難しく、従業員の給料アップなど、“望めそうにない”と経営者は話している。</p>	一般貨物自動車運送業 下松市

	<p>引き続き前年度を上回る輸送稼働をしている。反面、乗務員の全体的な不足と高齢化が顕著となっており、喫緊の課題となっている。燃料費については、依然として高止まりしており、消費税の増税が追い打ちをかける。</p>	<p>一般貨物自動車運送業 防府市</p>
	<p>物流に関しては、先月に引き続き荷物量に対して業界全体の車両数が足りない状況が続いている。会社の決算期に伴う荷物量の増と消費税増税前の駆け込み需要等の影響も大きいと思われる。石油価格が毎週じわりじわりと上昇を続けており、収益に影響を及ぼしている。</p>	<p>一般貨物自動車運送業 宇部市</p>
	<p>新聞紙上では、大企業はベースアップの報道であるが、中小のトラック輸送業者は、燃料費も上がるばかりの中、消費税増税分の転嫁どころではない。ETCの利用量は2月よりやや増加したが、業界全体でみると業況は悪い。</p>	<p>一般貨物自動車運送業 下関市</p>
	<p>タクシーチケットの取扱い金額は、前年比▲3.6%（平成26年2月1日～平成26年3月20日分）2月1日～28日分は▲3.8%、3月1日～20日分は▲3.3%となりました。消費税増税前の直接的な駆け込み需要とは無縁の業種だが、アベノミクス効果は、まったく感じられない。燃料のLPGは、CP（通告価格）が前月より下降した事で、タクシー会社の購入単価は先月より5%下がったが、前年同月比では+8%と高値となっている。4月から石油石炭税が上がることもあり、従来の価格に戻すことは難しいように思う。燃料価格の上昇は、組合員であるタクシー会社の経営を苦しめている。タクシー料金は、消費税の増税分の変更認可になる模様だが、メーターの交換費用や当面利用客の減少が見込まれる事など、収益状況は苦しくなる一方に思う。</p>	<p>一般旅客自動車運送業</p>
	<p>相変わらず、荷役の取扱量の伸びは感じられない。</p>	<p>港湾運送業</p>